

あのとときの常呂・写真館

VOL 197

(1992年)

平成4年8月1日

聖徳太子碑除幕・聖徳太子70周年記念法要

▶今回紹介する「聖徳太子碑」は2代目の碑です。●『聖徳太子碑70周年記念誌』（聖徳太子奉賛会出版：平成5年）所収の「聖徳太子碑由来」には、〈聖徳太子が治水の仏様として敬われるようになったのは、遣隋使や遣唐使を派遣した際、聖徳太子が治水などの土木工事や建築、あるいは呉服などいわゆる物差しを使って行う技術を導入したと言われることに端を発している〉と記し、歴史的経緯については、〈最初の聖徳太子碑は、大正11年6月15日に建立・除幕。場所は、当時下川沿と呼ばれた共立部落の小高い丘の上。大正10年6月に常呂川の治水工事が始まり、治水事務所・工事関係者・下常呂原野一帯に入植した地域住民らが着工の喜びと感謝の気持を表し、工事が安全に完成し、二度と水害に見舞われることのないようにとの深い願いを込めて、日本の治水事業の祖と呼ばれた聖徳太子の徳を忍んで建立。その後、一応の工事が完成した昭和7年に富丘にあった高德寺境内に碑が移り、昭和46年の高德寺移転（富丘から豊川）に伴い、翌47年に碑も移転。今回紹介する2代目の太子碑を『聖徳太子碑70周年記念誌』では〈建立70周年を記念に聖徳太子奉賛会が老朽化した石碑を建て替え、平成4年8月1日、除幕式と聖徳太子祭70周年記念法要を高徳寺境内の同碑前で行われ、関係者約100人が出席、聖徳太子を讃え、感謝を捧げるとともに、開拓当時の苦難に思いを馳せた〉と紹介しています。



高德寺境内の2代目聖徳太子碑

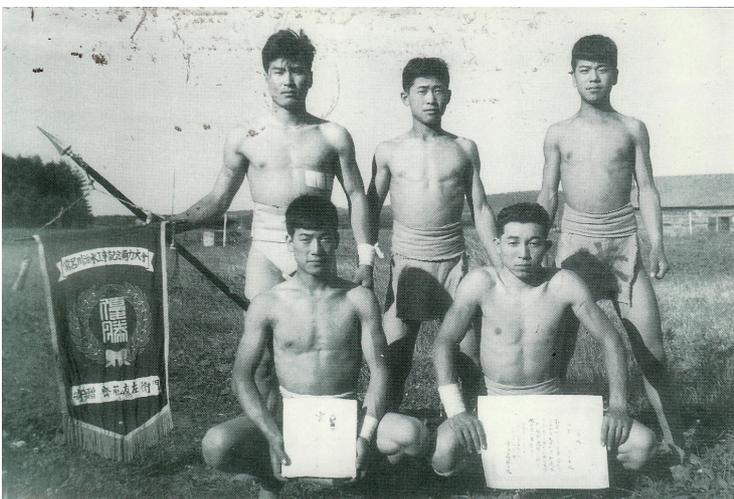
*右：聖徳太子碑の碑文

常呂川が毎年のように氾濫し、入植者を苦しめていたこと、常呂村の存亡が常呂川の治水工事にかかっていたこと、村を挙げて築堤工事を陳情し、大正10年に悲願が叶って工事が着工したことを経て太子碑を建立した意義と2回の移転、建立70周年を記念して新しい太子碑を建立した経緯を記しています。



*上・横：大正11年6月15日建立の初代太子碑

この碑は、北見市田端町にある網走開発建設部北見河川事務所に移設され、平成4年6月26日に同所職員や河川愛護会員ら約50人が出席して入魂式が行われました。



*左：昭和33年頃の聖徳太子祭の角力大会優勝チーム（優勝旗には、「常呂川治水工事記念角力大会」の文字入り）

*聖徳太子祭は、常呂川治水工事の起工式が大正10年8月1日に行われたことに由来して毎年8月1日に行われ、相撲など楽しい行事などで盛大に行われました。